

没後 40 年企画 明治文学研究の草創者にして最高峰

柳田泉の文学遺産

全 3 巻



イエ、まだです。キート読みます、必ず読みます。

貴方、柳田泉の文学遺産はもうお読みになったの？

明治文学の本格的な研究は柳田泉から始まった、といっても過言ではない。

没後 40 年が経ったいまも、その業績は超えられていない。

すべて単行本未収録の文章により編集した本著作集は、

近代日本文学研究者にとって必読の書であると同時に

これから明治文学を読む人のための恰好のガイドブックである。

右文書院

柳田泉(やなぎだ・いずみ)プロフィール

明治 27 (1894) 年～昭和 44 (1969) 年。青森県生まれ。早稲田大学英文科卒業。当初、英文学史の執筆を志すが、関東大震災で多くの本が焼けるのを目の当たりにし、二度、三度とこのような災害が起これば明治文学の研究は不可能になる、英文学史は自分でなくてもほかに書く人があろうと、それまでほとんど学問の対象とされていなかった明治文学研究を始める。折から吉野作造を中心に結成された明治文化研究会に参加。また、同研究会に所属していた宮武外骨の所蔵していたものをもとに東大に明治新聞雑誌文庫が設立された際には、その整理を手当で手伝い、より研究を深めた。その後、母校・早稲田大学に招かれて教鞭をとった。膨大な量の古書を蒐集し、実証的な研究を行ったことでも知られる。内田魯庵、坪内逍遙、幸田露伴、三宅雪嶺、木下尚江らに師事して多くを学び、貴重な証言を文章に残した。未完に終わった『明治文学研究』をはじめとして、『坪内逍遙』『幸田露伴』『随筆 明治文学』『座談会 明治・大正文学史』など、いまも柳田泉の著作は明治文学を知るためには欠かせない。



素晴らしい本でした。今度友人にも購読をすすめます。

『柳田泉の文学遺産』はいかがでした？

刊 行：2009 年 5 月より隔月刊

定 価：各巻本体 4,800 円 + 税

造 本：四六判、上製、カバー装

頁 数：平均 430 頁

(各巻に識者解説、人名索引を付す。)

*『柳田泉の文学遺産』第 1 巻～第 3 巻の各帯についている応募券をすべて官製はがきに添付の上、お送りください。もれなく無料で本巻に収めきれなかった柳田泉の文章を収録した特典 CD-ROM をお送りいたします。お申込締切は最終配本から 6 カ月後です。発送はお申込受付から約 2 カ月後となります。なお、本著作集は各巻 500 部の限定出版ですので、お早めにお求めください(全巻予約が確実です)。

右文書院

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5-6

TEL.03 (3292) 0460 FAX.03 (3292) 0424

<http://www.yubun-shoin.co.jp/>

柳田泉の文学遺産 (全 3 巻)

●お申込書店

お名前 _____

ご住所 _____

お電話 _____

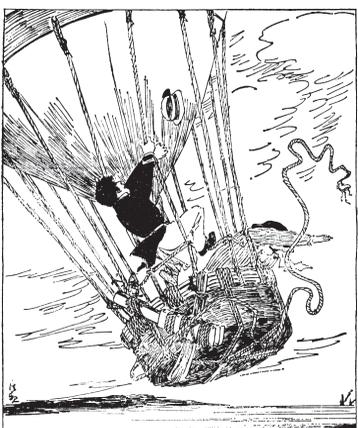
各巻収録内容

第一巻（第3回配本 九月刊行） 解説：横田順彌 ISBN978-4-8421-0721-1 C3391

自賛

自伝的回想

明治文学十話、明治文学随想、大正時代の記憶、大正時代の思い出



Illustrated by Kiyochika Kobayashi from *Ukishiho Story*

明治文学研究

明治文学の現代的意義、読者の立場の確立、明治初期の文学思潮、明治はじめの文学戯作文学のはなし、明治文学史案、明治初期文学と福沢諭吉先生、文学改良運動、政治小説の文体と発想、最初の翻訳文学、初期の西洋小説、沙翁生誕四百年、明治に於ける海洋文学、明治時代に於ける女性文学、明治小説のモデルについて、明治文学に現はれた人間観、資料の蒐集に
C312

第二巻（第2回配本 七月刊行） 解説：池内紀 ISBN978-4-8421-0728-8 C3391

作家と作品

龍溪の小説『経国美談』、そのほか、佳人之奇遇、坪内逍遙・二葉亭四迷入門、近代日本名著解題、近代日本文豪伝 幸田露伴、幸田露伴入門、露伴文学の輪廓、近代文学における露伴の位置、露伴文学の文学史的意義、露伴文学の世界、「探検実話・竜睡丸漂流記」という本、露伴文学と俳諧、幸田露伴の仏教思想、尾崎紅葉、緑雨と桜痴、『欺かざるの記』をよむ人々に、木下尚江、涙香以前から涙香へ、村井弦斎『日の出島』について

随筆

北風に臥して、書物を釣る、泥田を出たい、書物をやいた話、三鷹野居、野居偶筆、この頃のたのしみ、蘆花文学の思い出、学鏡と私、氷・さしみ・菓子、酒のまずの話、われにも三菜あり、津軽方言、二人いた徳川家康、アト・ランダム、随筆小品

第三巻（第1回配本 五月刊行） 解説：坪内祐三 ISBN978-4-8421-0729-5 C3391

文学者とその周囲

逍遙先生と女性、逍遙・八一両先生書翰集「こぼれ話」、二葉亭とその周囲、二葉亭四迷「余の思想史」解説、尾崎紅葉についての一考察、紅葉山人の父谷斎の武田姓、桃水と二葉女史のこと、一葉女史の兄、一葉女史と泉鏡花、鏡花と時代文学、鏡花伝き、がき、若き不知庵の恋、内田魯庵と同人社、子規と湖村と、透谷伝の一節、湘煙女史中島俊子、藤村詩の面白さ、藤村の恋愛、透谷と藤村、藤村兄弟の文学について、白鳥偶感、日本の良心・内村鑑三、日本文学におけるホセ・リサール、未完成の批評家・福島静斎

人物の思い出

随筆家春城翁のおもかげ、自然主義文学の先駆 長谷川天溪、ゆたか橋時代の秋草堂、莫逆の友、吉野作造先生と宮武外骨翁、荷風と帚葉山人、噫左文翁、研堂翁をいたむ、追悼斎藤昌三、尚江先生の臨終、馬場孤蝶氏について、「明治叛臣伝」のこと、駒村氏の思出、露伴の死、乱歩氏へのお願い、介山居士と私、津田先生雑聞集、勝本清一郎氏のことども

書評

江戸川乱歩著『幻影城』、中村光夫著『二葉亭四迷伝』、「素白随筆」と岩本素白先生

Illustrated by Gyoshu Goto from *Tsuyu-dan dan*

